

東部日本語ボランティアネットワーク 第22回定例会議事録

2018年6月23日(土) 14:00~16:00 三島本町タワー

【参加者】17名 (のびっこ) 石井/佐野、(富士宮) 望月/佐野/垣内、(沼津) 虎谷/高澤/相田、(裾野) 佐野、吉田、(伊豆の国) 久木野、(CIRCULO) 田中、堀井 (SIR) 古橋、(日本語学校) 西村、(東京) 影山、北村
(以上敬称略)

お知らせ (相田)

○前回の定例会の後、実習生の対応について臨時ミーティングを行ったが、実質は特定の教室での具体的な事案について意見交換する会で、とても有意義でした。今後も具体的な課題等について話し合う機会が欲しいという要望がありましたら、是非対応させていただきたく思いますので、相田までご相談ください。

○今回は「情報共有」(1.5h)と「意見交換」(0.5h)を時間で分ける試みをします。

1. 活動報告 (1.5h)

2. 活動報告についての意見交換 (15分)

3. 今日のテーマ(各団体の設立の経緯について) (15分)

(今回は、一人の発表時間を5分とさせていただきますので、ご協力よろしくお願いたします。)

1. 各団体の活動報告 (5分/人、1.5h)

1) 熱海国際交流協会 (中村、事前メール)

実習生の急激な増加見込みについて、準備その他教室内で共有したこと等

近隣の日本語教室の受講生数や傾向を共有する。(湯河原、伊東)

外国人を雇っている企業(介護、観光)の情報を得ておく。

日本語ボランティア講師との情報交換の場(定期的ミーティング)を設ける。

2) シルクロ (清水町日本語教室) (堀井)

・支援を始めて3年ちょっと経ちました。

・活動の見える化のためHPを作成した。「清水町 日本語教室」で検索すると5番目くらいにシルクロが出てくる。

スピーチフェスティバル(年1回4月開催)の集合写真、毎週風景を写真に撮ってコメントを入れたもの、雑学 → コミュニケーションのために

例) N2受験生「時間配分」に苦しんだという声を受けて実際に受けてアドバイス

日本人への引越しの挨拶 等

メンテナンスは大変だが、反応があるとうれしい。

FBもいいが、HPを作成すると活性化するので、皆さんにもお勧めしたい。

3) 富士宮市国際交流協会

資料:「FAIR 日本語支援委員会 平成30年度学校日本語ボランティア一覧」(添付あり)

(佐野)

①学校ボランティア

小学校~高校のサポート要請を受け学校への派遣をしている。

- ・バングラディッシュ男子（小2）（国語の時間 取り出し） 週4回（ボラ全体）のうち1回担当
日本に来て浅いので、こちらが話しかけても返答が無い。国語教科書の音読はできる。
教室でも同じ状態のようなので、徐々に対応できるようにしたい。
 - ・フィリピン女子（小4）（国語の時間 入り込み） 来日2年半
会話は問題ないが漢字が読めない。算数では記述や説明の問題もあるので、できていない。
作文でも助詞が抜けてしまう。他の生徒に助けてもらって文章を作り上げている状態である。
- ②「にほんごクラス」 富士宮の企業に派遣で勤務しているベトナム人11名（実習生ではない）
以前は毎週土曜日に教えていたが、それでは区切りが無いので、今年の1月から1クール10回×3
として教えている。N2～N5までレベルはバラバラだが、テキストを使用して教えている。

（垣内）

「にほんごクラス」でベトナム人を教えている。

日本語オープンサロンのスタッフとしても教えている。能力試験を教えているが、学習者が多様化しており、小学生も来た。実習生は能力試験の問題だけでなく会話もやりたいなど、ニーズも多様化している。教室としての方向性を模索しており、このような状況での運営について皆さんからも教えていただきたいと思っている。

（望月）

資料：「東部ネット定例会用資料 FAIR 富士宮国際交流協会 日本語支援委員会 望月美登里」（添付あり）

日本語支援委員会

- ①学校ボランティア 8名の子供 10人のボランティアが活動（一人週2,3回）

バングラディッシュやボリビア等の子供が来ている。

「やさしい日本語」も通じないまま学校に入ってきており、どのように授業に入れるか考えている。
ついていけない子は取り出し、ついていける子には寄り添う。放課後母親とも話し合う。日本語力
に合わせた形で教えている。

理事会に頼んで教科書を出してもらっている。謝金は600円/回。

- ②おしゃべりラウンジ（第三日曜日 10:00-12:00）

- ③にほんごクラス

おしゃべりラウンジで、ただのおしゃべりではなく勉強もしたいという学習者からの声を受け、
日本語教室を開催した。また以前、主に英語圏の外国人を対象とした教室「FAIR 日本語講座」も
開催した。しかしこれら2つの教室それぞれに課題があったので、統一して同じ形態で運営できない
か試してみることになり、今年の1月から始めている。

1クール10回の中でボランティアは一人5回くらい教えている。

- 4) のびっこクラブみしま（佐野）

昨年の4月から活動して1年経つが楽しく過ごさせていただいている。本当の意味でのボランティアとい
うことで参加している。

依然していた仕事のこともあり、外国人に「日本に来てよかった」と思ってほしいのが私の気持ちとして
あり、おせっかいかもしれないが近隣の行事なども周知して一緒に参加している。

震災イベントで伊豆総合高校の和太鼓に興味のある受講生（インドネシア人）を沼津の太鼓サークル（土曜日 18:00-21:00）に紹介し、最初1ヶ月は私も付き合い、その後一人で参加するようになった。日本語が出来なくても積極的に参加して、受け入れる側も対応してくれて、また年齢層も幅広いதாக、そういったところで自分の好きな事で日本人と自然に触れ合える場が出来てとても良かった。草の根の民間大使になってくれるとありがたいなと思う。

5) GGA（西村）

グランジャー・グローバル・アカデミー（GGA）沼津校（日本語学校）で、ようやく10月生徒受け入れが始まる予定である。

昨年10月の設立準備開始以来、地域の声を聴く機会が多くあった。日本語学習のニーズが高まってきていることをひしひしと感じた。

地域の日本語教育の拠点として日本語学校がリソース提供をしていけばいいと思う。学校はもちろん利益を追求していかなくてはならない立場ではあるが、垣根を越えた活動をしていけばと思っている。

自分自身もボランティアとしての関わりも持って行きたいという気持ちは変わらない。

日本語ボランティアとは別の話だが、NGOとして海外で活動している難民の支援や、日本に来て勉強したいという難民の力になることにも興味があり取り組んでいる。

今後も皆さんとの関わりを深めていきたいと思っています。

6) 伊豆の国市（久木野）

技能実習生がたくさん来たが、ある日30人くらい来て、会場で記念写真を撮って、その後来なくなった。

「仕事を求めている外国人いませんか」という人が来たりしている。

現在は落ち着いていて、20名近くが来ている。（実習生・ALT・中国の専門職の人たち）

日本語学校を出て、派遣会社から企業に入っている方が来ている（ベトナム人）

パキスタンの方（母日本人・父外国人）も来ている。

大仁駅前（伊豆の国市）に伊豆市の方が日本語教室をオープンさせた。こちらにも見学に来ていた。

7) ときどき函南（影山）

日本女子体育大学の教員をしている。富士宮出身。裾野FIA学院で420時間受講した。地域の情報を知りたくて参加させていただきました。よろしくお願いいたします。

8) 裾野市海外友好協会

（佐野）

毎週日曜日10:00-11:30で続けている。

技能実習生が多い（ベトナム・インドネシア・中国）

最近ネパールの人が来て息子さんが来た。

企業（トヨタ・ヤザキ）に社員として来ている人も何人かおり、N2などのレベルの人もある。

日本語と日本文化を学ぶというコンセプトをもっており、3か月に1回くらいアクティビティを行っている。先日は韮山に茶摘み体験に行き、大好評だった。

来月は七夕の飾りつけと話をしようと思っている。

一時期生徒が減ったが、また増えて4レベルに分けて行っている。

再来週は日本語能力試験なので、皆受験に行ってしまう教室は静かになる。

（能力試験のための教室ではないが、ニーズがあればこたえている）

(吉田)

上級を担当している（中国・ベトナム）。

日本語がよくできるので日本文化の話をよくしている。

9) シルクロ (田中)

清水町教室 HP を堀井さんが完成させてくださった。皆さん是非見てみてください。

①清水町教室 清水町からの援助をいただきながら運営している。

②日曜クラス ほとんどは技能実習生 2000円/8回

登録は40人くらいで参加は多いと20人ほど。教室はぎっしりになる。

ある派遣会社からの派遣が多く、サッカーチーム6チームできるくらいのベトナム人が在籍している。

送り出し側の国での日本語教育の期間が以前は6ヶ月ほどあったが、最近は2,3ヶ月ということもあるようで、レベルはN1~N4までとバラバラであり、一緒に教えるには対応が難しい。

試験の2,3ヶ月前になると試験の勉強に焦点を当てる。それを過ぎると、やはりみんなが勉強したいのは会話である。がちゃんとできるようになりたいというニーズが多い。

ある程度教えているうちに、レベルのばらつきによる然淘汰で、来なくなる。結果的に人数が抑制されている状況である。

女性が少ない。目的意識のある人は続いている。

③?

大人~子供まで。年齢もレベルもバラバラ。南米、フィリピンの方が多い。3人くらいまでの個別指導もしている。英語圏の方を中心にした人 (ALT 等) が多い (経済面も関連)。

実習生からはあまりお金は取れず、ギリギリでやっています。行政からの支援はない分自由に出来ている。

10) SIR (古橋)

資料 2枚

「静岡県国際交流協会からのお知らせ」(下記内容)

「◆大会日程◆」*これは去年の学会資料(参考までに)(紙)

1. 子どものための日本語学習支援基金 (子ども日本語基金)

・提案型助成事業・①日本語学習支援 ②キャリア教育支援 ③地域住民との交流 ④子どもの居場所づくり のいずれかをテーマとした事業に対する助成を行う。

<申請期間> 夏?

2. 創立30周年記念事業

「国際交流・協力部門」「多文化共生部門」に分かれて事業表彰を行う予定。

ふるってご応募ください。

<申請期間> 7月情報公開予定

<30周年記念イベント>

・平成31年3月10日(日)

・あざれあ(静岡市)

3. 日本語教育学会秋季大会

平成30年11月25日(日) 12:00~13:30くらい@沼津ヴェルデ

- ・「安心・安全」をテーマとした地域日本語教育の取り組み
- ・30分程度の時間の中で、10~15分の発表+15分の意見交換
- ・ポスターセッションのようなイメージ、ホワイトボードに掲示しながら説明をする。
何かしら資料は必要。
- ・1名分の交通費が支給される。謝金はなし。

*古橋に取組み内容がわかるもの(概要)をメールでください。どの団体に発表を依頼するかは学会が判断し、連絡が行きます。

4. 技能実習生

一時何度か連絡のあった監理団体からは、ぱたりと連絡がなくなった。
同じ監理団体が富士・富士宮で100人規模で受け入れるという情報がある。

1 1) 文化庁日本語教育担当(北村)

生活者としての外国人という切り口で日本語教育支援を行っている。

「地域日本語教育実践プログラム」(教室、人生育成・教材作成等をパッケージで提供)と、「地域日本語教育スタートアッププログラム」(日本語教室がない地域で一から立ち上げ、安定させるという3年間のプログラム)を実施している。その他にも「日本語教育大会」というイベントや研修を開催したりしている。

日本語教育人材の資質や教育内容を議論してきた(報告書 H30年3月)。これから日本語教育人材の養成機関に活用していただこうと思っている。留学生に対する日本語教師、生活者としての外国人のために指導をする指導者、それをサポートする方などの研修のための教育内容の例を示した。

HPに載せたので、「文化庁 日本語教育人材」で検索をしてください。

1 2) のびっこクラブみしま(石井)

資料 「2018/6/23 東部日本語ボランティアネットワーク定例会」(添付あり)

- ・日大国際関係学部 アモールの学生さん 頭痛のため欠席(⇒代わりにアモールの分も説明します)
- ・総会、フィリピン DAY、高校受験結果に絞って、資料に沿って説明

1 3) 沼津国際交流協会、静東教育事務所日本語支援コーディネーター(虎谷)

資料①「日本語指導が必要な児童生徒への支援体制づくり(来日時期別一覧)」(紙)

資料②「外国につながる子どもの日本語教育にかかる主な取り組みと課題」(紙)

- ・1市教委、17小中学校から派遣要請があり、学校訪問をした。
- ・個別の指導計画の作成方法を教えて、子供にあったカリキュラムを作成したりしている。
- ・子どもの支援のデータ(5月1日調べ)

外国にルールのある	小学校	119校(5人以下:63校)	要日本語支援	233名
	中学校	69校(〃:49校)	〃	88名

加配の先生 東部はあまりいない。

沼津:小学校3校(中学校なし) 富士:小学校3校 富士宮:小学校1校 御殿場:小学校1校

- ・今年度は特別支援の勉強もしている。
- ・高校に入ってから日本語支援が必要（外国人枠だけでなく、普通に入った生徒も）
- ・手厚い支援によって高校合格したが、経済的理由で（私立）高校を辞退する残念なケースもあった。
結果→私立高校辞退後、定時制高校に行くことになった
- ＊皆さんが関わっている大人の支援もとても大事である。親がしっかりと仕事をし、子供の教育にお金をかけられる状態に持っていかななくてはならない。すべて繋がっているので、支援者同士に加え、小中、中高さらに学校を超え企業も含め連携が必要。
- ・資料②について知りたいことがありましたら古橋さんへおたずねください。

1 4) 沼津国際交流協会（高澤）

資料 「公益社団法人 日本語教育学会 社会啓発委員会主催 秋の一般公開プログラム」(紙)

- ・沼津高専で留学生に指導（国費留学生で優秀な学生が多い）
内容は難しいが、支援にはそれほど苦労していない。
- ・暁秀高校 国際バカロレアプログラムで日本語指導をしている。
- ・沼津国際交流協会 ボランティア
日本語教室の立ち上げを行った。最近は多忙で参加できない状況である。
- ・ふじのくに 多文化共生ネットで活動
少人数で行っている。著名な先生たちと難しい話をしている。
文化庁からの委託事業を4年前、5年前に行った。
メール転送した資料（文化庁から）もみてください。
- ・日本語教育学会 会員
学会の人と多文化共生ネットを通じて知り合い、お手伝いなどを行っている。
秋の学会の研究大会は沼津のヴェルデで開催される。
テーマは「安心・安全」で一般公開プログラムもあるのでぜひきてください。
- ・主に大人の外国人を相手にする活動を行っている。子供の日本語教育も大切だと思っているが、キャパもあるので今後も大人に絞って活動しようと思っている。

1 5) 沼津国際交流協会（相田）

- ・学習者は40人くらい。新規学習者が毎回5名以上入っている。実習生かは聞いていないが若いベトナム人も多い。新規学習時間（1時間半）の最後の15分に、受付が担当してゲームを通じた交流を行うという取組みを継続している。（テキストの課グループごとに説明してから全体で。しりとり、歌等）
- ・会の運営に関し、多数決ルールの適用方法について、「決定する際の選択肢の決め方が大事」だと感じた。
交流タイム（全員）の今後の運営について、最初の暫定の選択肢として、以下の三つが挙がった
①月一 ②毎週 ③やめる
さらに議論する中で講師の気持ちも大事だが、学習者の気持ちも大事ということで、以下の4つめの選択肢が挙がった。
④毎回相談して、実施するかどうか決める
しかし最終的には選択肢は増えず、逆に以下の二つに減った。
①やる ②やらない
それでは決められないという方がいて、難しいと感じた。

二択にしたのは、とりあえずそれで前進できるという意図だったかもしれないが、いずれにしろ多数決で決める際、大事なことは多くの人が「自分の考えに近い」と思えるような選択肢を設けることだと思うので、むしろ前進にはなっていないような気もした。

多数決では選択肢の設定ルールも運用にあたっての課題だと、あらためて感じた。

- ・ 実習生の急激な増加については、部会長などと個人的には話したが、会全体では共有していない。沼津は20人増えてもなんとかなると思っていたという事情もある。ただ最近では40名くらいと増えてきたので、ここで2,30名増えると厳しいかなと思っています。実習生の情報について全体で共有しようと思う。

2. 活動報告についての意見交換 (15分)

Q のびっこさんへ

アモール受験生、アモール1年生はどういう意味か (資料の文言の確認)

→アモール受験生：日大アモールの中で受験生をサポートするグループ

アモール1年生：日大アモール (サークル) の1年生

高校生のみしまサンバ：日大三島高校インターアクトクラブ

Q 西村さんへ

新設日本語学校 (GGA) は日本語能力試験を取りたい人も学べる？ 昼間？

→学校は昼間が基本だが、週末でも夜間でも出張授業も検討できる。

はじまったばかりなので、臨機応変に対応可能である。問い合わせに対して具体的な提案をしたりしている段階である。もう少しニーズの把握をしてから進めようと思っている。

日本語学校の就学生のアルバイトの問題がありそう (週28時間以上できないことの確認など) (コンビニのレジなど技能実習生ができない仕事へのニーズが高い)

- ・ 実習生について、静岡県国際交流協会への問い合わせがすごく多い

事業を始めて7年になる。会社として実習生を受け入れることが重要ですよということを理解してもらうため、お試しとして、費用を最初は協会が負担し、企業の負担の段階的に比率を上げていくという内容。最初はSIRが費用を負担するという事で、企業からの問い合わせに加え、監理団体からの問い合わせが増えている。あまり多いようだと見直しも必要になるかもしれない。こちらの意図にかなった形での運用がなされるようにしたい。

Q 富士宮さんへ

学校から要請があって支援に入っているのか？

→学校から教育委員会に要請が行き、こちらに来る。情報把握等も学校教育課にやってほしいが、異動などもありそれができていない。そのため、こちらが打診をして「教育委員会に伝えてほしい」と学校に言っている。

そのため数字に上がっていない状態なのか？

→学校は知らない場合がある。どこの地域も漏れている (数として挙がってきていない) 子供がいるようだ。

学校からは派遣要請がないと行けないが、市教委にはこちらから働きかけることができるようになったので、機会があればきいてみます。ボランティアからも学校側に、支援体制がある旨伝えてください。清水町にはいっぱいいるのだが小学校・中学校の子は行っているのか？

→他のグループで教えている。午後5:30からはシルクロでも受け入れているので来てくれれば、できる。時間帯的に中学生が来ている。去年の中学校3年生は全員高校へ進学した。

学校の勉強だけでは難しく、のびっこさんやシルクロさんの存在は大きい

3.今日のテーマ(各団体の設立の経緯について) (15分)

各教室の設立経緯、設立にあたって必須だったと思う要素等を共有しましょう。

・背景

昨今実習生の増加などに伴い、日本語学習環境のさらなる強化が要望されている。特に県東部には教室の無い市町(函南や伊豆西部など)もあるため、将来的に誰かが教室を設立する意志を持った時に参考に出来るよう、ノウハウなどをまとめておくことに意義があるのではという声が東部ネットの一部のメンバーから挙がった。

・目的

将来的に東部ネットあるいは他の個人や団体が日本語教室を設立する際に、スムーズに立ち上げられるよう準備をする。

熱海国際交流協会(中村、事前メール)

熱海の日本語教室の前身は、10年以上前にある企業にきた外国籍社員の配偶者の日本語教育だったようです。

設立にあたって、行政の協力が得られることや情報が共有できる環境が必要だと思います。

(民間の力だけでは、解決することが困難なケースも発生するかと思います。)

教室を開ける会場、アクセスが良い会議室等。

大仁日本語話そう会(主催:山口さん)開設について(石井)

6/21(木)スタート

会場:大仁駅前「まちすけ」

H29年5月にオープンした大仁駅前を活性化するための案内所 運営:NPO 法人伊豆学研究会

時間:毎週木曜午後7時半~9時

経緯:

息子さんが勤めていた市役所に、外国人母が子どもの予防接種が受けられずに英語で相談に来たことを聞き、読めない人にとって広報誌の情報は伝わらないことを知る。

何か自分にできることはないかとネットサーフィンした結果、日本語ボランティアに行きつき、養成講座に通う。

学びと同時に文化庁のスタートアッププログラムを知り、交流協会と市にプレゼンを働きかけ、2年前にプレゼンを行うも申し込み申請をするまで至らず、一旦、日本語教室開設を中断。その後、個人でできる範囲でやることに考えを変えて場所を探す中で、伊豆学研究会のHさんに出会い、一気に開設へと進んだ。



スタートアップに必要なこと(と継続に必要なこと)

・場所、運営費(できれば自腹は無きこと)

★大事なものは人(できれば無償でしてくださる奇特な方)

★情熱のあるキーパーソン(市との交渉等ができる方)

・長く続けることを考えると「無理をしない」「できることをできる範囲で」

*裾野は1人が1か月に1度くらいのペースだから続いている。

ただ一人(キーパーソン)は「楽しみながら犠牲」になるくらいの気持ちの方が必要かも。

- ・人が大事というのに同意だが、現在日本語教室がない地域のことを考えると、いかにして人材を掘り起こすための工夫が重要だと思う。ただいきなり教室を立ち上げようという人はなかなかいないだろうし、期待も出来ないと思う。そこで段階的に進んでもらうため、「日本語教え方」講座、「多文化共生」講座の開催などを通して、仲間と一緒に学び、義務もまだ生じない立場で、自然な形で関心を持ってもらうというのは良いと思う。
- ・マスコミを上手に利用させていただいて周知する。
- ・担い手をとということだと、西部で担い手が不足しているところでは、互いの団体のやり方は異なるが協力しようということで、東部で開催したりレー研修に関心もってくれている。
- ・東部全体での研修は、立ち上げにはつながりづらいと思うので、ターゲットとなる地域（例：函南）で地元の人に集まっていただき、自発的に始めて欲しい。

資料 のびっこクラブみしま「教室の設立経緯、設立にあたって必須だったと思う要素など」（添付あり）

Q 文化庁の方へ

→日本語教育推進基本法（仮）が議員立法で、今後立法化されるが、これが出来たからといってすぐに日本語教育の義務化などが進むわけではない。その下で細かい法律をつめていく中で、「生活者としての外国人」のための日本語教育についても、足がかりとしてできることには文化庁としても期待している。具体的には子供の教育、生活者、留学生のことなど、各省庁間で横断的に盛り込んだものになっている。

函南について

- ・ LINK にも 2 回くらい視察をしに来ていたので関心はあると思われるが、教室を開くにはまだハードルが高いとお思いになっている様子。

4. 全体連絡

- ・地域日本語教育スタートアッププログラムをつかってください。コーディネーター研修も受けてください。
- ・SIR は、今年度はボランティアセミナーを開催しません。30周年記念があるため。

(以上、敬称略)

各団体の活動報告で使用了資料

(富士宮)

2018 東部ネット定例会用資料

FAIR 富士宮国際交流協会・日本語支援委員会 望月美登里①各教室

「にほんごクラス」の設立経緯

日本語支援委員会のメインの活動は2つあります。1つは学校ボランティアとして、市内小・中学校に通学している外国人を親に持つ児童・生徒への校内での日本語支援（マンツーマンで、その子の日本語力に合わせて授業への入り込み、取り出し、あるいは放課後支援を週2、3回ずつ実施）

2つ目は毎月第3日曜日10～12時「おしゃべりラウンジ」を開催、年齢、性、国籍は関係なく、おしゃべりしたい外国人が集まり、お茶しながら委員とおしゃべりをする。その中で日本の生活習慣やマナー、文化、言葉を学んでもらいたいとの趣旨で始めました。おしゃべりだけではマンネリするので、時に外国人が主体（フィリピン、ベトナム等）で料理教室を開いたり、他市や他団体の行事に皆で参加しました。それらのことから我々委員が知ること、学ぶことも多いと思います。その中でおしゃべりだけでなく、きちんと日本語を学びたいという声が上がりました。又、FAIR事務局へも「日本語を教えて欲しい」という外国人からの問い合わせも増えました。そこで委員の都合のつく（第3以外の）日曜日に希望者を集め10:00～11:30きららに部屋を確保、一人ワンコインで日本語教室を開催しました。しかし生徒の都合で来る人数、来る生徒が確定しません。縛りが無いため、どっと来たり、誰も来ず部屋をキャンセルする等、相手の都合に振り回される状態が続いたことで、打開策を練りました

以前からFAIR日本語講座（毎週火曜日19～20:30、主に英語圏の外国人対象）がありました。この教室も同じような形にできないものかと計画を練りました。同じ形態（生徒募集と確保・講座費用は1回講座10回授業で3000円、途中参加は残り分の支払い、支援者を固定化しその謝礼金はFAIR講座と同じにする、事務局主催で部屋の確保、教材費や準備、事務処理は全て事務局で実施する）で計画を作ってもらい、今年の1～3月に試行として第1回目を実施、平成30年度「にほんごクラス」として正式にスタート、1期5～7月実施中、2期は9～11月、3期は1～3月に予定、現在ベトナム実習生12名、支援者は7名（1期5回づつ支援）で実施中

②設立・実施上の留意点

市の国際交流協会・日本語支援委員会活動の一環であり、予算は全て市から出ているため、年度開始前に理事会での活動計画の承認を得る必要がある。2017年3月理事会に申し出、やっと12月に試行の許可が出て、正式には今年度からの開始となった

N5～2級の教材でN検定を取るという目的を持ち実施、始めは2、3人から7、8人に、今や12人に増えている。口コミで同国人を誘いあっているようだ。これからも増えそうだがFAIRの年間予算に限りがあるため断るしか無い

支援者はFAIR日本語支援委員会委員であることを条件とし、FAIR日本語支援者養成講座（ACC主催）の受講修了者（日本語教師・教員経験者は除く）1回に委員3名（年間予算の関係でオーバーできない）と事務局から限定されているため、きめ細かい支援は難しい。又、日曜日なので子育て中の方には負担である。足りない支援者の解消に講座修了生に積極的に入ってもらえればと思う。今後、この活動が我々委員会が主体ではなく、学校ボランティアは教育委員会が、実習生は市が主導で実施し、FAIRに必要なボランティア要請が来るようなシステムになって欲しい。又、予算に関しては市が企業（実習生を雇用）に何らかの働きかけをしてもいいのではないのか。FAIR日本語講座でも今では受講生は全員ベトナム就労生だとか。課題は山積みである

- ・ 該当校3校、児童生徒8名、支援ボランティア委員10名（日本語支援委員会委員）
- ・ 小学校は国語、中学校は国語・社会（地理・歴史）の授業時間に支援
- ・ 教科書は学校内支援の必需品なので FAIR で準備、4年生以上（小学校のみ）は9月から下が入荷します。2学期始めにお持ち下さい。1年間貸与ということで自分専用にお使い下さい（紛失や破損の場合は自己責任でお願いします）
- ・ 担任との連絡（携帯）を密にし、授業前後に内容や気付いたことを話し合い下さい
- ・ 児童生徒の遅刻・欠席の連絡は確実に早めに連絡して頂いて下さい
- ・ 月・年間行事予定を頂き、学期毎の始めと終わり、行事日を確認して下さい
- ・ 1学期に2, 3回委員会を開催、ボランティアの現状報告や情報交換、時には研修を計画したいと思います。できるだけご参加をお願いします
- ・ 県、東部、他市の研修会には積極的に参加され自己の研鑽に務めて下さい（FAIR で研修費・旅費負担）今年度は県国際交流協会30周年行事で講座は開催されない
- ・ 担当の児童生徒や保護者との信頼関係に務め、FAIR や他団体、委員会主催の国際交流の行事と一緒に参加し楽しんで下さい。

(のびっこクラブみしま)

2018/6/23 東部日本語ボランティアネットワーク定例会

のびっこ&日大アモール活動報告<<12月~6月>>

12/9 のびっこクリスマス会 (NHK 歳末助け合い助成事業)

サンタ柄の手巻き寿司、各国のクリスマスのようす (発表)、だしもの (歌、ギター、手品)、ビンゴ、ピニャータ

学習者に活躍の場を！
プロジェクターを使って発表。

冬休み特別教室@市民活動センター (冬休みは北小が使用不可)

1/8 日本語ボランティアセミナー

のびっこ…ペルー出身のピエロを呼んだ時のクリスマス会について発表

(親にとっては懐かしい体験、子どもにとってははじめてルーツの文化に触れた子も) 母文化継承 日大アモール…のびっこクラブでの活動紹介

1/13 第3回真冬の大運動会@市民体育館…市内スポーツ少年団と共催、

1/20 のびっこ新年会

紙コップでケン玉を作って遊んだ

2/24 外国ルーツの大学生の話「どうやって学校生活をすごしたか」

ブラジル出身の父も参加

3/10 生涯学習インストラクターによる押し花のしおり作りとボードゲーム

4/17 三島ワイズメンズクラブ例会にて、のびっこクラブみしまの活動を紹介

4/19 第1回のびっこ世界の料理教室

王さんのヘルシー中華料理…セロリと大根の餃子をメインに、簡単にできる酢の物サラダ

4/28 のびっこクラブみしま総会

H29度活動報告

のびっこクラブ (土曜日 地域連携室) 49回 来室延べ人数は14か国448人

クラスぼよ (長伏小 週1) 39回

受験生夏休み特別教室 (市民活動センター) 19回…日大アモール受験生グループの自主活動

義務教育年齢超過生・定時制高校生 (市民活動センター、図書館2階) 平日昼間

5/12 こどもの日パーティー (日大三島高校生参加)

こいのぼりちらし寿司、こいのぼりぬり絵、魚つり、しっぽとり、

だしもの (高校生のみしまサンバ、学習者のギターと歌、日大アモール1年生の絵本読み聞かせ)

5/20 フィリピンDAY (日大国際関係学部)

ポスター展示 (のびっこ…学習者への質問票結果、日大アモール…活動紹介)

6/16 バーベキュー (上岩崎公園)

7/7 セタパーティー (予定)

親や家族、卒業生との交流。

アモール1年生と学習者との交流。

高校受験結果…全員合格

私立高校 2人

県立高校 3人

数年前までの「とにかく入れる高校」から、
「入りたい高校」に入学するようになった

…のびっこだけでは無理→子どもに合った塾の紹介、外国人就労支援日本語教室の紹介、SNSで励まし

近況

1、質問票からわかったこと

対象：のびっこで学んだ高校卒業生以上

方法：メール回答もしくは聴き取り（現在5名回収）

目的：市に支援体制の充実を要望する資料の1つにする？

わかったこと： 1、「国へ帰れ」「フィリピン人はナマケモノだ」など口や態度による嫌な経験がある
2、日本に対して「豊かな国」「母国も日本もぼくの国」というプラスの印象を持つ
3、日本にずっと住みたい、日本の社会に貢献したいと願っている
4、日本の社会は、外国ルーツの子どもにもっと日本語や勉強を教えてほしい
外国人は、外国人ということを言い訳にしないでがんばってほしい
日本人側に、もっと異文化の違いを理解させてほしい

2、家族が増えている

・妹家族の来日 ・新しい命の誕生 ・家族の呼び寄せ

3、成長した子が、現実的な目標を持ち始めた

・医師希望→デザイン系専門学校合格 ・海外の大学希望→日大国際関係学部（予定）

課題

1、義務教育修了後来日する子どもの対応

2、増える就学予備軍をどうするか

3、親子の問題（文化や考え方の乖離）→問題は続いているが成長した子どもが自立の道を探り始めた
親の無関心…高校入学書類作成や銀行手続きも子ども任せ

↑ホントに多い、表現が難しい、揃えるものが多い、サポートなしでは無理

4、専門家との連携はますます必要に

家庭児童相談、障がい福祉課、高校カウンセラー

学校から連絡がとれなくても、のびっこネットワークで取れることも→履修届け

法的なことは公的機関に

教室の設立経緯、設立にあたって必須だったと思う要素など

経緯

日本語サークル児童支援として外国ルーツの子どもたちに日本語支援をしていく中で、中学へ進学した子どもたちから「学校の勉強を教えてほしい」という強いリクエストがあり、市教委に相談したのがはじまり。

ちょうど北小学校体育館ができたところで、その中に地域活動に限り無料で使える部屋「地域連携室」があることを、当時の市教委外国籍担当から教えてもらう。

さっそく団体登録をして、毎週土曜日に無料の学習支援教室を開催するに至った。

必須だったこと

1、足がでないこと（無料で借りられる場所）

2、無償の活動でもよいと、集まってくれる奇抜な人

3、「できることをできる範囲で」というスタンス

4、忍耐（話がスムーズに進まなくても、「まあこんなモンか」と割り切れるメンタルの強さ？）

で、始めたら…

5、いっしょに楽しむ気持ちの余裕

（ボランティアが楽しくなければ学習者も楽しくない、楽しくなければ活動は続かない）